

今日は、私が専門としている、日本語教育のお話と先月 訪問した、ブラジルへの旅行について お話したいと思います。

今、私は、サンディエゴシティースクールディストリクトの中のパトリックヘンリー高校で、フルタイム そして、サウスウェスタンカレッジでパートタイムで 日本語を教えております。

私は、ちょうど、日本語ブームの起きた 1990年代前半に UCSDのアシスタントから、ダウンタウンの中学、ラホヤ高校、スク립スランチ高校から、ヘンリー高校にうつり 5年目で、日本語を教え始めて、早くも20年以上の月日がたってしまいました。

ヘンリー高校は、8番をはさんでSDSUの反対側に位置する、サンカルロス、デルセロコミュニティの中にあり、バスでダウンタウンエリアから、通う生徒も多く、2,500人弱のさまざまな 人種から 構成されている四年制の公立高校です。

日本語と一言で申しましても、いろいろな日本語があります。

母国語としての日本語、継承言語としての日本語、外国語としての日本語などがあります。ヘンリー高校の日本語プログラムでは、外国語の中のひとつの選択科目として、日本語がオファーされています。毎年、130人から150人の生徒が 4レベルに分かれて 日本語を勉強しています。

外国語を履修することは、高校卒業のためには、1年、大学に行くための必修科目としては、2年から3年とらなければなりません。

ヘンリー高校の外国語部では、スペイン語、スペイン語を話す生徒のためのスペイン語、フランス語、アメリカンサインランゲージ、ドイツ語と日本語があります。ほとんどの生徒がスペイン語をとりますが、ほかの選択科目もあわせて、助け合いながらも、外国語、エンジニアリング、AP、海洋学など、さまざまな科目間で、熾烈な競争が行われております。

現に、ドイツ語は来年から、なくなることになりました。選択科目をとる生徒は お客様と同じで、お客様が少なくなると プログラムとして成立しなくなるのです。そのために、教師は

その科目を教えるだけでなく、さまざまなことをして、プログラムを強化していかないとけません。

アメリカの日本語教育界では、今“アドボカシー”というトピックでよくワークショップや、勉強会が行われています。日本語で“推進活動”といわれます。どのような活動かと申しますと、

1. クラブ活動の維持 2. 中学へのリクルート 3. Visible な存在になる 4. 生徒、親、アドミン、コミュニティーとの コミュニケーション 5. 日系会社への寄付のお願い 6. 日本文化の紹介 7. 姉妹校の訪問 8. フィールドトリップ 9. 日本への旅行 10. クラスの質の向上 など 数え上げると きりがありません。大抵の教師は、9月ははつらつとして、新学期をむかえ、4月、5月になると、バーンアウト状態になり、長い夏休みで充電して、また 9月から 新しい年がはじまるというパターンです。

経済活動と言語習得の関係は 深く、これからの世界のグローバル化のために、アメリカ政府も 遅ればせながら外国語を学ぶ 重要性をとらえております、 私たちは、日本語ができてその先に なにがあるのかを提示して、日本ファンを たくさん 育てていきたいと思えます。

言い換えれば、いろいろなアクティビティーをとおして、日本を身近に感じてもらい、好きになってもらうことを 目標をしております。

SDJBA のみなさまの ご理解とサポートに 感謝して、私のスピーチとさせていただきます。 ありがとうございます。